



宮城県への派遣にかかる 活動報告（農業農村関連）

宮城県仙台地方振興事務所
奥 健史



1. 宮城県における震災等の概要

■ 地震の概況等

- (1) 発生日時 平成23年3月11日（金）14時46分頃
- (2) 震央地名 三陸沖（北緯38.1度、東経142.8度）
（牡鹿半島の東約130km）
- (3) 震源の深さ 約24km
- (4) 規模 マグニチュード9.0
- (5) 最大震度 震度7（栗原市）
- (6) 津波 7.2m（仙台港）
（平成23年4月5日気象庁発表）
※痕跡等から推定した津波の高さ
8.6m以上（石巻市鮎川）
（平成23年6月3日気象庁発表）
※津波観測施設のデータ解析による

【浸水面積】左図ピンク色の範囲

県内の浸水面積は327km²

※6県62市町村の浸水面積合計561km²の約6割に相当

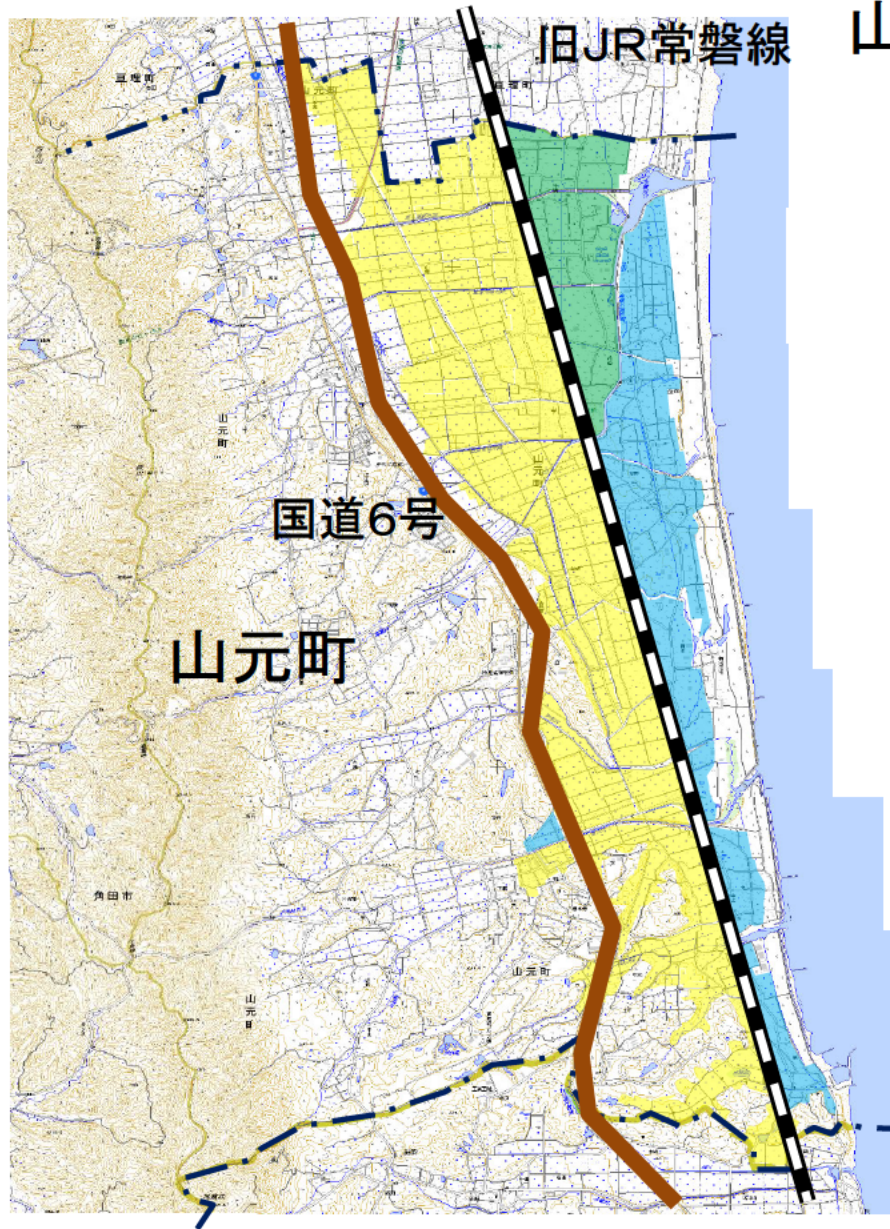


担当被災地の現状

山元町の地形的な条件

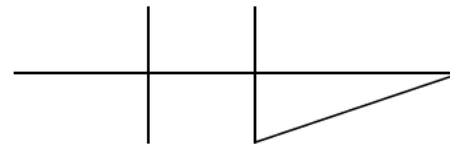
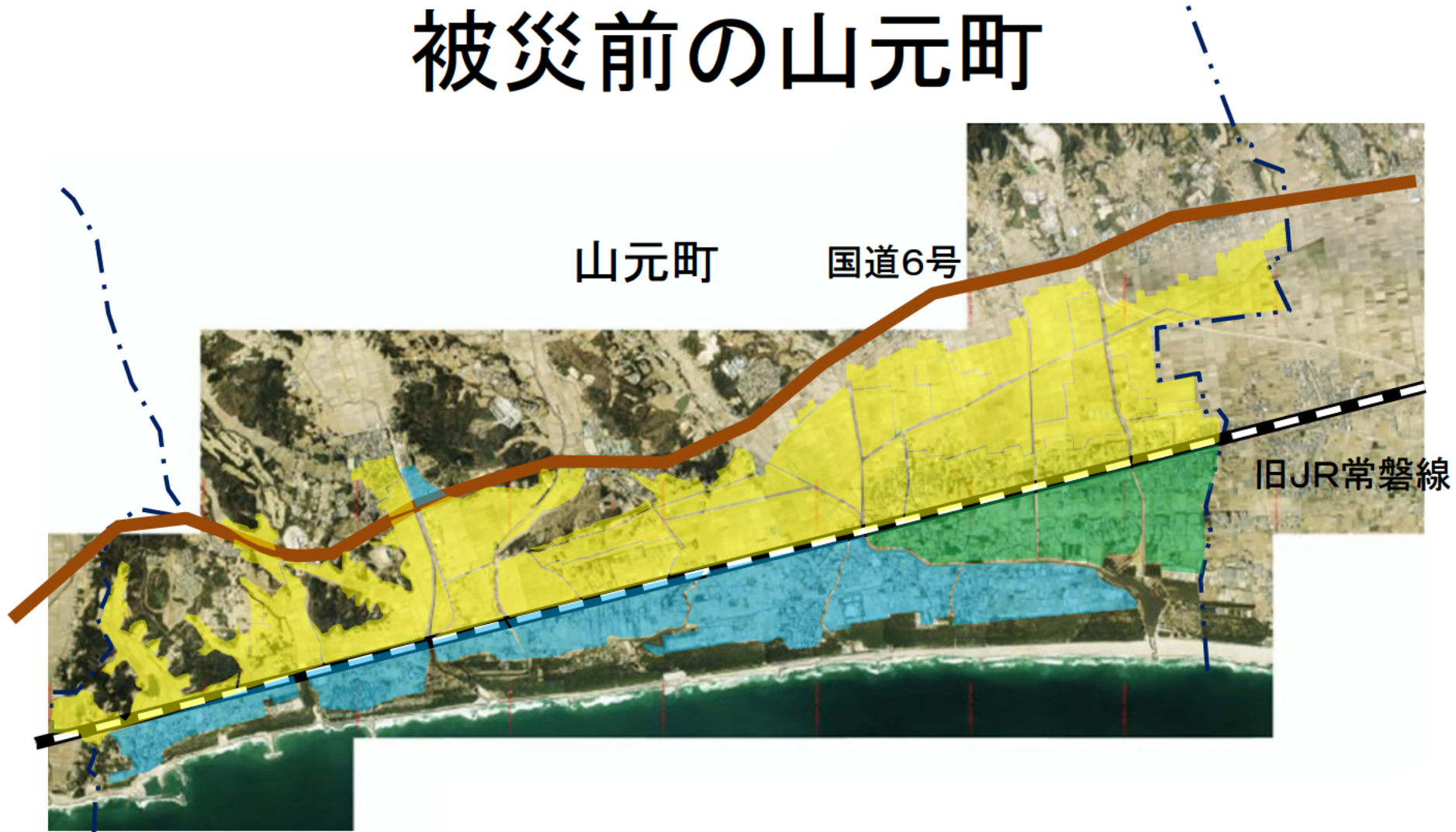
- ・ 東に長い海岸線をもつ
- ・ 西側は小高い山
- ・ 海岸線に並行して松林（保安林）があった
- ・ 保安林～国道6号線の間
津波で被災した農地が広がる
- ・ 集落は主に下記の範囲に集中
 - ・ 海岸付近～旧JR沿い
 - ・ 国道沿い

三重県でいえば北勢～中勢地域の伊勢湾沿いの農地に雰囲気に近い



- 災害復旧事業実施済エリア
- 災害復旧事業一部実施エリア
- 災害復旧事業未実施エリア

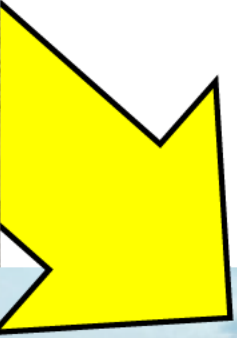
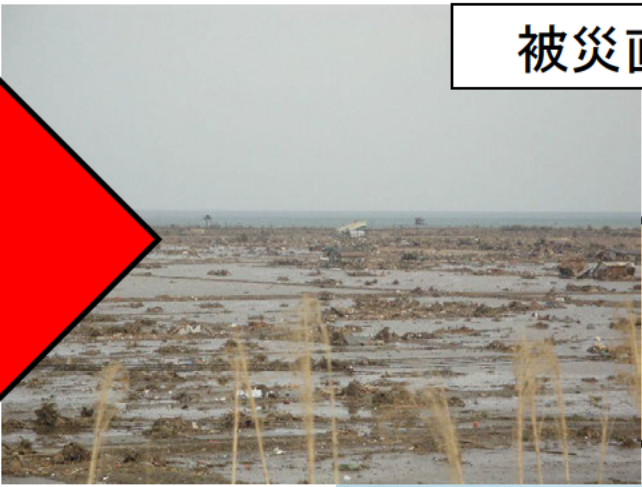
被災前の山元町



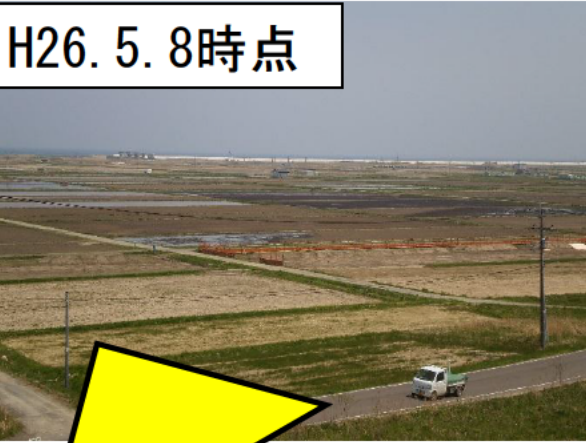
被災前
「未来へのキオク」を
参照
<http://www.miraikioku.com/>



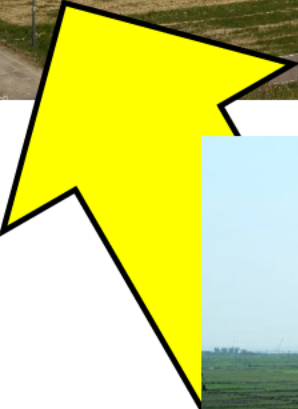
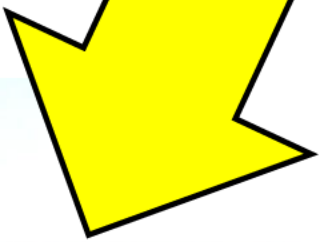
被災直後



H26. 5. 8時点



復旧状況 山元30付近



被災前



被災直後



H26. 5. 8時点



復旧状況
花笠第2
排水機場



山元町の被災状況



復旧状況

平成23年3月撮影



復旧状況

平成23年3月撮影



平成23年5月撮影



平成24年3月撮影

農業用排水路ガレキ撤去状況【山元町新井田川承水路】 【写真番号②】

農地ガレキ撤去状況【山元町高瀬字北沼地内】 【写真番号③】

除塩工の手順

○農地復旧・除塩対策の流れ



津波被災状況



ガレキ撤去



農地の堆積土砂撤去



弾丸暗渠の施工



耕起, 及び必要に応じて
石灰質資材散布



湛水・排水



農地復旧・除塩対策終了

2. 業務を通して得た教訓・知見、 三重県への提言

テーマ： (1) ことば (対象：地元)

背景： 農林水産業施設災害復旧事業という
独特の制度の中での公共事業の実施

現状：

- ・ 通常の公共事業と異なり
細かな制約が多い
- ・ 「元に戻す」ということ
ばへの認識・思いが農家
と行政で異なる

課題：

- ・ 制度に関して地元の理解
を得るために説明の繰り
返しが必要
- ・ 説明で解決が困難な場合
の対応・対策の検討

提言：

- ・ 継続的・定期的な情報発信
- ・ 国庫補助を補完する、県市町独自の事業制度の検討が必要

ことば(農家と行政の違いのイメージ)

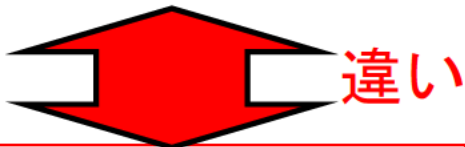
制度の主旨

農林水産業の維持を図り、
あわせてその経営の安定に寄与



農家のイメージ

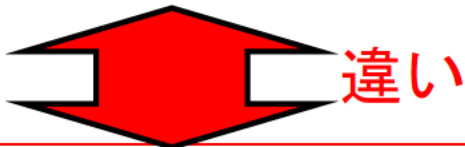
農家としては
同じ農地



違い

制度上の限界

- ・ 農地災害特有の限度額
- ・ 事業費・要件による違い



違い

農家の感じる違い

施工上の限界

- ・ 雑物除去で、出来高基準を定められず、ばらつきがある
特に10 (~35) mm以下の石やがれきは除去が困難

2. 業務を通して得た教訓・知見、 三重県への提言

テーマ： (2) ことば (対象：職員間)

背景： 各都道府県から様々な年齢、経験の派遣職員を受入れ、
プロパー職員と共に業務を遂行

現状：

- ・ 職員各自のもつ経験、知識に基づく前提条件が、派遣先と異なる
- ・ 方言や話し方の違いでストレスを感じる人もいる

課題：

- ・ 話し手、聞き手双方が会話の中で常に「前提条件」確認が必要
- ・ 相手を意識・理解した話し方のスキルの向上

提言：

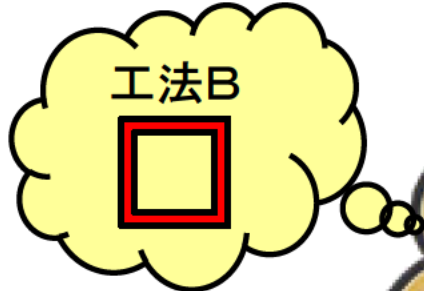
- ・ コミュニケーション研修等の充実、継続
- ・ 他の都道府県との人事交流の継続

(参考) プロパー職員：
もともとの職員という意味

ことば（対象：職員間）のイメージ

【思い込み】

他県でも同じ



農地Aの復旧について、
工法Bを施工してほしい



プロパー職員

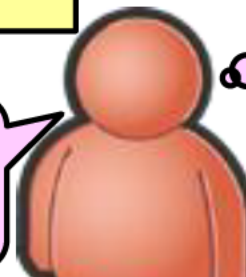
【思い込み】

ことばは通じた=内容は同じ

工法B



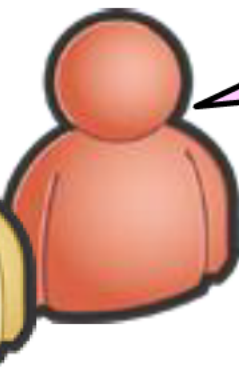
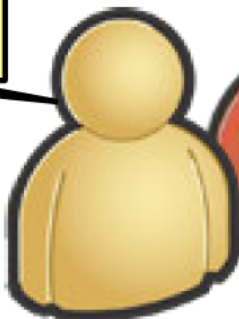
了解。
工法Bを施工します



派遣職員

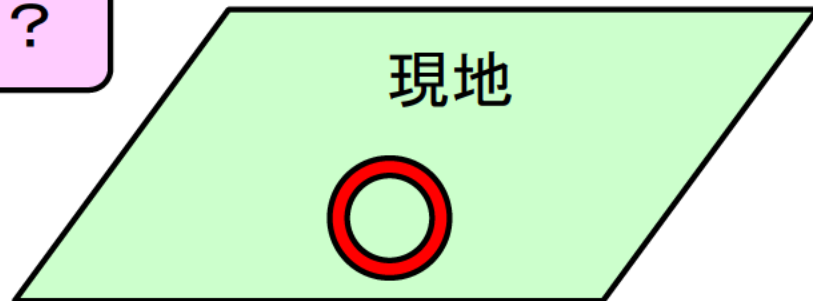


ちがうよ！



!?

現地



2. 業務を通して得た教訓・知見、 三重県への提言

テーマ： (3) 周辺地域

背景： 広域的な海岸沿いの災害復旧事業に伴い
山沿いの地域や隣接する市町村から土を搬入

現状：

- ・ 土砂運搬のため
災害に関係ない地域でも
ダンプトラックが走行
- ・ 多量の土砂採取のため
複数の山地がなくなる

課題：

- ・ 土砂運搬ルート沿いの
騒音、振動、粉塵および
道路破損への配慮が必要
- ・ 土砂採取も含めた
環境への配慮

提言：

- ・ 国庫補助を補完する、県市町独自の事業制度の検討が必要
- ・ 土砂採取後の復旧方法の検討

2. 業務を通して得た教訓・知見、 三重県への提言

テーマ： (4) 情報の活用

背景： 千年に一度といわれる未曾有の災害のため
復旧状況をはじめ、様々な情報が求められている

現状：

- ・ 調査に時間を要する

【例】 契約状況の場合
災害復旧事業の範囲が広く
地区数が非常に多く
全体の把握が困難

課題：

- ・ 三重県では
工事進行管理システムで
一元管理

DWH（データウェアハウス）で
資料の整理が容易

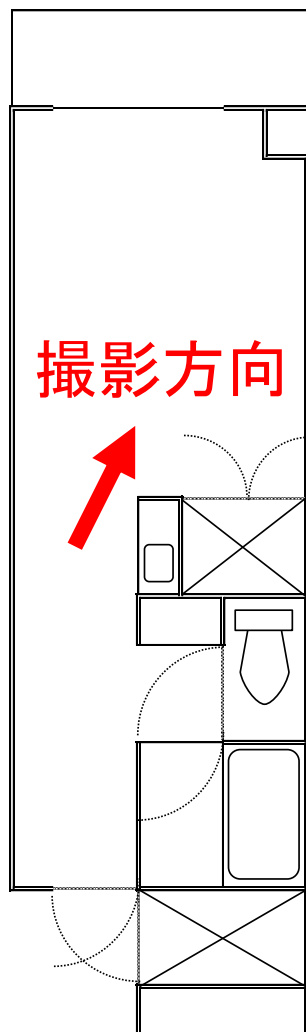
提言：

- ・ 情報を有効活用するため、三重県の現在保有する
工事進行管理システム等のシステムは今後も必要不可欠

有効な三重県のシステムの一例

1. 進行管理システム（三重県版）
 - ・ 工事執行と予算との関係性が常に確保されている
 - ・ DWHの利用で、発注状況などの調査が容易
2. 電子納品（特に写真）
 - ・ 宮城県の農地等の災害復旧事業では対象外
 - ・ 写真は計画変更など、第三者への説明で必要不可欠
3. 情報共有システム（三重県では実証実験中）
 - ・ 派遣の入替りが多く、書類の状況が把握しがたい
 - 自動的に提出書類の整理、提出状況の把握が容易
4. GIS（三重県地図情報サービスを含む）
 - ・ 査定、復旧状況の定点観測などで利用されている

派遣生活について



宮城県からの
家具家電のレンタル

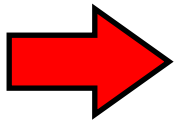
- ・カーテン
- ・テレビ
- ・電子レンジ
- ・冷蔵庫
- ・洗濯機
- ・テーブル（こたつ）
- ・エアコン
- ・電気コンロ（備付）

派遣生活（感想）

宮城県から無償で必要な家具・家電が貸し出されているため、特に不便は感じない

愛子寮の場合、通勤で利用するJR仙山線の陸前落合駅まで近く便利

愛子寮がJR仙山線と比較的大型車両の交通量の多い道路に隣接しているので、慣れるまでは寝れないという意見も聞いたことはある。（朝4時頃から大型車交通が多い）



環境変化への適応という意味では、三重県内の異動でも変わらない

ご清聴ありがとうございました



むすび丸

復興へ
頑張ろう！

みやぎ